コルネリオ会

（防衛関係キリスト者の会）

ニュースレターNo. 166

2024 年 8 月

信仰短信

日本基督教団月寒（つきさっぷ）教会員　清水幸子

いつも丁寧なお便りをお送りくださいましてありがとうございます。お恥ずかしいですが、もう二十数年前からお送りしようと考えていました昔の写真を同封いたしました。また、おこがましくも、同封の写真によせてお手紙を書くことにいたしました。

夫は警察予備隊、保安隊、自衛隊員でした。転任が 2〜3 年ごとに、札幌→真駒内→千歳→旭川→千歳（2 回目）→八戸→千歳（3 回目）→根室標津（しべつ）→千歳（4 回目）→倶知安（くっちゃん）→札幌と転任しましたが、転任の先々でどんな役が夫にも私にも頂けるのか、私たちに何か役立つことがあるはずとワクワクしながら任地へ行きました。　＊

この写真は、1955 年（昭和 30 年）頃でして、米軍基地に日本人は必要業者以外、その中に入れない時代でした。当時の千歳市街にはオクラホマからいらした米国の兵隊さんたちが献金し合って、協力され、日本基督教団千歳栄光教会、牧師館建設まで漕ぎつきました。聖日にはいつも米兵 5〜6 名は、礼拝に出席して日本人も 20 名くらいだったでしょうか。

なかなか和やかな集会でした。当時の岸本貞治牧師のことを教会員は「おじいちゃん」、夫人である岸本静子さんを「おばあちゃん」と呼び、お二人は慕われていたのです。ある聖日、しかも説教の真最中に病院から「至急献血者募る、女性が出血多量」という知らせが飛び込みました。私は「礼拝中ですが、この中で若い方 4、5 人献血お願いできませんでしょうか。」すかさず、牧師は「皆さん、どうかお願いします。」隊員さんは「私が直ちに参ります。」といって 4 名、病院へ駆けつけお陰で女性は一命をとりとめました。そのようにすぐに対応するおじいちゃん牧師でした。その女性は本州のご出身で、洗礼は戦後の千歳で受けられ、今もお元気です。

羽仁もと子の「友の会」の務めや教会奉仕もされ活躍されています。ご主人は自衛隊員でした。よく私を指導し、助けてくださり、家庭集会を交互に続けることができました。そしてお二人とも祈祷会・礼拝をしっかりと守られて、なくてならない教会員です。おじいちゃん先生は幼児教育の大切さを思い、千歳に二つの幼稚園を建て、現在も地域の方々に大変喜ばれています。

当時の私は保安隊、後の自衛隊がどうしても納得できずに、夫に「どうして職業軍人になったのですか。」と迫りました。夫は「普通の私たちの家で、夜になったら心張棒（しんばりぼう）（施錠のこと）をかけるでしょう。それと同じく日本でも心張棒が大切で、自国を守るために必要な職業であり、けして攻めたりするものではないんだよ。」と言っていました。　＊

昭和 30 年頃　千歳地区米軍基地にて

私は戦後の信者でした。教会の行き初めは17歳頃。日本基督教団岩内教会の牧師は戦地に行ったまま帰還も生死も判らず、礼拝堂の裏で裸電球の下、細々と牧師夫人、役員、老人 4 人くらいで祈祷会を行っていました。ひたすら祈り、役員の持ち回りで家庭集会も続けられてよく、面倒をみていただきました。その体験は後の私の転任の先々で、隊員さんやお母さんたちや子どもたちに対して楽しい集まりの家庭集会にお招きを続ける力となって、今があります。

新婚当時の家庭集会は保健所長さんと家族と勤務の人達、お琴の先生ご夫妻、友人。千歳ではご近所の方達を招き「六畳二間は窮屈でしょう。」と上司のお家が会場になり、「世界平和祈祷会に是非私も連れて行って。」と、たくさんの主婦が集まりました。次の任地、八戸では地元の方々が小旗を振って迎えてくださいました。そこではパウロが大好きなバプテスト系の牧師さんの聖書研究会と家庭集会を始めました。根室ではやっと音楽隊を頼んで行進したその直後に、「やーい、自衛隊の税金泥棒」という声が聞こえ、後ろで私たちはさすがに我慢していたことも。でも、家庭集会は続けておりました。高校生も、隊員さんも、一般の方も加わりました。宣教師夫人アデラさんは米国仕込みのアイスクリームやジャム・ジュースの作り方を教えてくださり、集会を盛り上げてくださったのです。

宣教師夫人がメノナイト派の集会を導き、聖霊という確かな信仰を与えられました。ただ、終着点である札幌では家庭集会に一般の方が集っても受洗者は出なかったのですが、不思議にもわが家に退職後の夫と母と子ども 3 人が受洗してびっくり、その子たちの結婚相手も信仰に導かれ、孫たちもクリスチャンになりました。

年 1 回、「清水会」（みんなで楽しみにしている家族の集まり）を開き、それぞれ福音系、日基、日本基督教団に属し、夜を徹して信仰談義をいたします。遠軽の家庭学校、牧師、教会役員、奏楽者、教会学校のスタッフと、それぞれ異なる地でご奉仕させていただき元気です。　＊

さて私はリュウマチ痛で親指、人差し指、中指のみ健在です。この 3 本はありがたい。今後の終わりの人生まで何が出来ようか楽しみです。

以下、短歌を作ってみました。

〇気に入りのお鍋の焦げを落としつつ、証のテーマようやく決まる

〇六本の指は残りしわが宝、施設の友に一日３通

〇灰色の空は絶ちたしみちのくの原発被害の人らと起たむ

〇ようやくに「ユルスワデキル」元米兵「ワスレルデキナイ」あのパールハーバー（パールハーバーの奇襲の夜を米兵は、赦せるが然しどうしても忘れられないという。当時の日本兵と戦後70年目に日本で野球の親善試合をして、互いに握手を交わした話）

〇パーキンソンの夫の椅子押し礼拝へ若きら三十段を担ぎくれたり（14年前に夫は帰天）

〇日本海に棲む魚なしミサイルの嵐をさけて何処に行くや

証と教会学校と礼拝の花活けと PTA。こども会に幼稚園に、夫のぼろ軍服上衣に、母の残した防空頭巾をかぶり、自作の紙芝居で戦争反対の話をしに出かけていきます。

神様はこのあと何歳まで生かしてくださるでしょうか。私は死ぬことは平気です（満 95 歳）。皆様の上に主のご祝福をお祈りいたします。心から平和を願い祈るものです。　（平安）

＊：区切り

防大落ちて信仰への道
（僕の自衛隊〈成人期〉）

（前号からの続き）

単立馬橋キリスト教会　会員　谷 二郎

僕は生まれて35日目に百日咳に罹り、7回窒息をしました。最後は医者が諦めたのを母が、「わたしにやらせてください」と、膝の上で人工呼吸をして息を吹き返らせたのです。このことを両親から聞きながら育ちました。

だから、「余生を生きている」と思い、「世のた

め人のために生きよう」と考えていました。防大を受験した時にもはっきりそう思っていました。

防大を落ちて、日大に進みました。部活動は、「茶華道研究会」でした。1 年生の時に「関東学生茶道連盟(関茶連)」の茶会が護国寺でありました。先輩の同級生が防大の茶道部でしたので、防大の茶室に入りました。「あぁ、僕はあの制服を着て、あのようにお茶を点てていたんだろうな」と羨ましい思いでお茶を一服しました。

大学 3 年のハタチの時に、学友に誘われて「ビリー・グラハム国際大会」(武道館 1967 年)に行き、イエス・キリストを救い主と信じました。幼い頃教会学校に通っていた「馬橋キリスト教会」に再び通うようになりました。それからすぐに『みことばの光』を用いながら、57 年間日々聖書を読み続けています。

教会の先輩が「大学卒業後の進路はどうするの？」と訊きました。僕は当時のはやり歌の文句の「ケ・セラ・セラ」と答えました。「なるようになる」という意味でもありますが、雪村いづみは、「ケ・セラ・セラ、心配せずに、神様の手に任せましょう」と歌っていました。

卒後の進路は「神のために生きる」ことも加わり、父の影響もあって、障害児の教育に導かれました。日大理工学部を出て、１年間東京学芸大学で障害児教育の勉強をしました。そこで、教会付属幼稚園の教師であった、信仰の先輩で、障害児教育を目指している孫福節子と出会い、結婚しました(2013 年召天)。

知的障害児の学級の担任になってのある年に、移動教室を計画し、防衛庁共済の「走水荘」で宿泊をし、防大付近をハイキングしました。

その後の勤務先は、十条駐屯地の隣の「都立王子養護学校」に勤めた後、自衛隊中央病院隣接の「青鳥養護学校」に教頭として勤めました。

校舎の窓からは父の勤めていた補導所が見えました。婦人自衛官も歩いていました。転勤して真っ先に補導所に挨拶に行きました。父が採用した教官が１人おられました。こちらも名前が分かりましたし、教官も僕を覚えていてくださいました。新任教員(技術科)の初任者研修は、彼が自衛隊好きとのことで補導所にお願いをしました。

また、婦人自衛官の看護学生の実習を依頼されました。お願いに来られた教官の婦人自衛官が、校庭の縦の長いコンクリ歩道を腕を振って自衛隊歩きで颯爽と入って来られたのが印象的でした。保育園での受け入れが難しくなったとのことで受け入れました。当時は、PKO 反対のポスターが組合によって職員室に張られていた時代です。左翼思想の強い教員が多く、どんな対応をするか心配でした。

看護学生は職員朝会の始めの挨拶で、「〇〇学生以下何名、只今より体験実習に就く」みたいなことを言ったので、「普通に喋れないのかよ～」との声が聞こえましたが、先生方はやはり大人で、若い学生さんを優しく丁寧に指導していて安心しました。

青鳥養護学校の移動教室には、三宿病院(中央病院)の医官が毎年付いてきてくださっていました。ある年は、若い医官が付き添いでした。「PKO に応募したいので、あちこちに電話をしなければなりませんがよろしいでしょうか」と言って、聖山の宿舎から電話をしていました。

その後、２つの養護学校を勤務した後、肢体不自由の「大泉養護学校」は最後の勤務校でした。やはり「朝霞駐屯地」の隣でした。ここは、行事のたびに案内をくれました。校長は行きたくなさそうで、「副校長、自衛隊好きだろ、代わりに行って」と言われ、喜んで行きました。桜まつり、夏まつり、演奏会など。ホルン奏者のミノモさんは「ポスターのコレあたしです」と言ってポスターをくれました。広報のアラキさんは転勤後、「市ヶ谷に見学に来てください」とはがきをくれました。自衛隊記念日には、予行で学校の上を飛行機が飛ぶというので、わざわざ幹部女性自衛官が挨拶に来られました。凛々しい制服にほんのり香水の香りのする美人でした。泥と汗にまみれた WAC とは、文字通り雲泥の差と言うのでしょうか。学校では香水の香りなどかいだことがありませんから、メロメロしそうでしたが、こちらも管理職、淡々と対応いたしました。

筋ジストロフィー症で体をあまり動かせない生徒の哲君は、自衛隊が好きでした。お休みの日に、

お母さんと一緒に自衛隊の音楽会に連れて行ってあげました。哲君は今、天国にいます。

「コルネリオ会」という名前を聞いたのは、ずいぶん前です。僕の通っている馬橋キリスト教会の故新井宏二牧師が、「コルネリオ会でお話をしてきた」と僕におっしゃっていました。防大教授の今井先生には、キリスト教研修会でお話をしたことがありました。

そして、圓林ご一家が馬橋教会に来られ、教会学校で共に奉仕をし、深い交わりを持つことができました。圓林兄が防大卒とのことで、「受験だけは僕のほうが先輩ですね」と上から目線で言いました（笑）。

圓林兄は、転勤で馬橋教会を去りましたが、今はZOOMの時代、ネット上で共に教会学校(ポニー)の奉仕をしています。この１月の教師研修会は「勝田駐屯地(施設学校)」の見学をさせていただき、圓林兄の校長室で自衛隊についてのお話を聞きました。

前号にも書きましたが、僕の周りには、防大こそ落ちましたがいつも自衛隊がありました。

母に助けられたこと、防大に落ちたこと、この二つは僕の人生の大きな岐路でした。そこで別の道を歩んでいたら、どんな人生を送っていたのでしょうか。今の人生が無かったことは確かです。

また、家内はクリスチャンとしか結婚しないと決めていましたが、僕は出会う前にクリスチャンになっていました。神様の導きによって結婚し、今の子供達孫達がいるのです。

神様は、良い出来事、悪い出来事すべてを働かせて、最善をなしてくださいました。イエス・キリストの十字架の救いがあったればこその、僕の人生なのです。主にハレルヤ！　　（おわり）

２０２４年度総会報告

6月8日(土)、2024年度コルネリオ会総会をZoomで実施し、2023年度の活動報告・会計報告と2024年度の活動計画・予算計画及び役員人事の審議を行いました。

2024 年度の活動計画、役員人事、会計決算及び予算は次のようになっています。異議のある方は会長（中野久永）宛て 1 ヶ月以内に申し立ててください。

1　2024年度コルネリオ会活動計画

１　方　針

2024年度コルネリオ会の主題聖句：

「主は私の羊飼い。私は乏しいことがありません。」

（詩篇 23:1）

毎朝のディボーションによって聖霊の力を得て、この世に「神の国の実現」に向けて祈り、実行する。

２　具体的活動

（１）例　会

ア　例会は、原則として毎月第２土曜日に開催する。2024 年度も日本全国および海外からも参加可能な Zoom を利用して、学びと交わりを充実する。

イ　学び会は 2024 年度も牧師先生方、AMCF 会長等によるメッセージおよび各人の証しおよび Inductive Bible Study 方式による使徒の働きの学びを通して、会員の霊的成長と神の国の実現につながることを目的とする。これによってお互いの信仰を高め合い、現役会員の使命が達成されることを祈るともに、参加者全員および家族の平安と健康が保たれるように祈る。さらに部隊内および隣人との良い関係を実現する。

ウ　祈り会（第 4 土曜日）を引き続き継続する。現役祈り会は第4土曜日 21:00－21:30、退役祈り会（ダニエル会）は第4土曜日 20:00-20:30

エ　新来訪者を歓迎し、共に学び交わる環境を醸成していく。

（２）広　報

ア　会員の証しや学び会での恵み、活動に賛同してくださる先生方の投稿記事等、ニュースレターの記事をさらに会員の霊的成長につなげる内容に改善し、会員の活動への参画意欲を醸成して行く。

イ　また、中央からの情報発信だけでなく、地方でのコルネリオ会活動の情報提供にも心がける。

ウ　現在編集中の証集が完成したならば、関係者に配布し、コルネリオ会の活動、伝道に活用する。

（3）宣　教

ア　ホームページにコルネリオ会の例会・総会の議事録を掲載するとともに、牧師先生のメッセージを YouTube に載せる。また各国 AMCF 等のホームページの日本語での紹介等を実施して会員等が活用しやすいホームページ作りに着意する。

イ　韓国軍人クリスチャンおよび防大生との交わりを継続し、信仰を深め励まし合う。

ウ　宣教団体との協力を継続し、会員の霊的成長につながる情報を提供していく。

（4）国外活動への参加と支援

ア　AMCF（世界軍人キリスト者の会）及び ACCTS（AMCF の教育支援機関）および MSO(韓国の宣教支援団体)との連絡・調整を維持し、相互の意思疎通を図る。

イ　2024 年 AMCF 世界大会（ブラジル主催 10 月 16 日-19 日）に参加する。
東アジア(韓国・台湾・モンゴル・中央アジア)軍人クリスチャンとの親善に努める。

ウ　2025 年 EA Interaction 主催国として開催準備を計画的に進める。

エ　ACCTS(アメリカ、リック・ライレス元大佐)および MSO(韓国、イー・カップ・ジン元中将)との交流を継続する。

（5）会　計

ア　活動の運営資金が備えられるよう、ニュースレター・ホームページ等を通じて祈り求める。

イ　予算の効率的な使用を心がける。

2　2024 年度　役員人事

役　職	氏　名（細部役割等）
会　長	中野久永（全般、海外担当）
副会長	圓林栄喜（会長補佐）
総　務	加瀬典文（例会案内・書記・現役祈り会担当） 尾崎伸作（IT 関係担当） 佐藤有希子（奏楽担当）
企　画	関 博之（企画） 荻原洋聡（企画補佐）
渉　外	薮内隆志(日本語ホームページ) 中野久永(英語ホームページ)
広　報	圓林栄喜(NL 編集、郵便・メール発送) 佐藤有希子（同上：印刷） 海野幹郎（国内広報担当） 関 博之　（国内広報担当） 甲斐悠樹（国内広報担当） 八木信如（国内広報担当） 常盤一崇（国内広報担当）
会　計	長濱貴志(会計業務全般) 森川拓弥（同上補佐）
監　査	中岡一秀（会計監査）
顧　問	石川信隆（例会・広報担当） 今市宗雄（ダニエル会担当）
主任教職顧問	佐藤 順牧師（単立牛込キリスト教会）
教職顧問	大頭眞一牧師 （京都信愛教会兼明野キリスト教会） 金 学根牧師（JMBA） 井草晋一牧師 （日本メノナイトブレザレン教団、コルネリオ会関西支部担当） 徳梅陽介牧師 （日本同盟基督教団馬堀聖書教会）

3　2023 年度 決算

（２０２３．４．１～２０２４．３．３１）

1 収入	前年度繰越金	¥2,127,457
	献金　一般	¥393,000
	献金　AMCF ブラジル大会	¥30,000
	利息	¥10
	合計	¥2,550,467
2 支出	講師・謝礼費	¥100,000
	ニュースレター作成・発送費	¥14,888
	新聞雑誌広告費	¥27,500
	集会/例会会議費	¥22,110
	慶弔費	¥0
	接待交際費	¥0
	旅費・交通費	¥0
	事務通信費(はがき・切手・ｲﾝﾀｰﾈ	¥4,069
	雑費（振込手数料・郵送通知料	¥9,585
	献金（国内国外教会・海外へ）	¥0
	2023　Interaction 支援	¥0
	小計	¥178,152
	予備費	¥2,372,315
	合計	¥2,550,467
	2023 年度への繰越	¥2,372,315

4　2024 年度 予算

（２０２４．４．１～２０２５．３．３１）

1 収入	前年度繰り越し	¥2,372,315
	献金一般（クリスマス献金）	¥400,000
	献金 2024AMCF ブラジル大会	¥100,000
	献金 2025 EA Interaction	¥50,000
	利息	¥10
	合計	¥2,922,325

2 支出	講師等への謝礼・支援費	¥120,000
	ニュースレター作成・発送費	¥50,000
	新聞雑誌広告費	¥30,000
	集会／例会会議費	¥30,000
	慶弔費	¥20,000
	接待交際費	¥30,000
	旅費・交通費	¥20,000
	事務通信費(はがき・切手・ｲﾝﾀｰﾈ	¥10,000
	雑費（振込手数料・郵送通知料	¥20,000
	献金（国内・国外教会・海外	¥20,000
	メッセージ・証集印刷代・配布	¥300,000
	2024AMCF ブラジル大会への参加	¥300,000
	特別会計 2025 EA Interaction	¥150,000
	小計	¥1,100,000
	次年度への繰越（予備費）	¥1,822,333
	合計	¥2,922,325

愛とロマンの地へ（奥地宣教と日本）

アルゼンチン宣教師　在原 繁

1　奥地未伝地帯

首都ブエノスアイレスの人々によれば、「ミシオネス州にだけは行きたくない」という声が多いようである。「イグアスの滝」や「ミッションの遺跡群」など、世界に名だたる観光名所を有しながら、この州が何ゆえ敬遠されるのか？ 矢張り「亜熱帯の酷暑」「麻薬の危険」「時代遅れ」が人々の心にイメージとして存在するからだろう。実際に奥地・三国国境地帯とはそのような所である。

（1）愛とロマンを求めて

「あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。」（創世記 12 章 1～2 節）

世界各国（主に欧州）から明日の「新世界」を夢見た人々が、この奥地「ミシオネス州」への開拓を始めたのは 1920 年代で、その流れがピークに達したのは 60 年代初頭のことである。世界 120 ケ国から構成される移住者たちは、各民族ごとに昼なお暗いジャングルを伐採しながら「コローニア」（移住地）を切り拓き、村落を形成し、後に町へと発展させ現在に至っている。

キリスト教を土台として形成されてきた「欧州諸国」の民が、意識をしてはいなくても、祖国の底流に流れる「創世記 12 章」の御言葉に啓発され、南米移住に挑戦したという事である。疲弊した欧州の自国に見切りをつけた彼ら移民者の動機は、土地、経済、平和、将来性など、求める所は各人異なると思う。しかし、「キリスト教国家」の人々の心に流れる可能性を秘めた土地への移住動機に、「聖書」が影響していることは否定できないだろう。

荒廃した欧州各国、特に「ドイツ」「ポーランド」「スペイン」「イタリア」西欧諸国は戦災前後の大不況にあえぎ、「ロシア」「ウクライナ」をはじめとする東欧諸国は、共産主義社会からの難を逃れてやって来た人々であった。「日本人」は、第二次世界大戦後の経済的困窮が移住の動機であった。戦前の南米諸国への日本人移民も、要因は同じく経済的問題にあった。庶民（特に農民）の当時の生活は貧しく、飢饉に喘ぐ貧困家庭は「出稼ぎ」「娘の身売り」で生活をつないだことが記録されている。

「明治維新」という社会的大改革を果たしたとはいえ、青春時代の情熱に燃える明治から昭和時代の近代日本は、帝国主義白人諸国家からの脅威におびえながら、貧困に耐え続けていたのである。南米移住は日本を強化させるための「国策」だったとも言えるだろう。

移住の動機は多様であったにせよ、120 ケ国からなる各民族は「愛と夢と希望」に胸を膨らませ南米奥地へやって来たことは、ほぼ間違いない。移民者の心に燃えていた言葉は、新世界への「愛と夢とロマン」だろう。

（次回に続く）

献金感謝（2024.3.1-2024.6.30）

皆様の献金を心から感謝します。（敬称略、順不同）

飯塚正実、清水幸子、小島健二、康田洋子
海野幹郎、佐藤順、内山義彦・和子
瀬在道晴・米子、吉田　靖、石井克直
中野久永、今市宗雄、福嶋信人、宮岡修二
石川信隆、白井富美、常盤一崇、長濱貴志

献金振込先は次のいずれでも結構です。

① 郵便振替口座：00130-3-87577（コルネリオ会）
② 銀行振込口座：三菱ＵＦＪ銀行　和光支店
店番 505　口座番号 0385701
ジェーエムシーエフ　ナガハマタカユキ
③ ゆうちょ銀行　〇一九(ゼロイチキュウ)店
当座 0087577　コルネリオ会